

第 43 回創価大学・第 31 回創価女子短期大学卒業式「祝辞」

ノーラニット・セータブット

本日、ご卒業される学生の皆様、本当におめでとうございます。

実は私も昨年 7 月に創価大学の名誉博士号を頂きました。その意味で皆さんと同じ創大の卒業生の一人として、皆さんの卒業をことの他うれしく思います。本当におめでとうございます。

タイのタマサート大学と創価大学の交換協定は 1985 年に始まりましたが、実は私自身はその前から創価大学と交流をして参りました。というのは私が副学長時代の 1984 年に、タマサート大学のサッカーチームを率いて来日し、創価大学との親善試合を行ったからです。試合の結果はどうであれ、両校の学生が、ともにたいへん友好的に試合を行ったことが深く印象に残っております。

ともあれ、1985 年以来、多くの学生、そして教職員が創価大学と交流の歴史を刻み、両大学の関係はますます強固にそして深くなっております。

1994 年 2 月、創価大学の創立者の池田先生をお迎えし、タマサート大学で「世界少年少女絵画展」を開催いたしました。その際にはプーミポン前国王の姉君、ガラヤニ王女を主賓としてお迎えすることができたのです。当時私は学長でした。

1998 年 3 月には創価大学とタマサート大学の共催で「第 6 回環太平洋シンポジウム」を盛大に開催することができました。

また昨年 6 月にはタマサート大学の教養学部棟内に両大学の友情の証となる「創価大学タイ事務所」をオープンすることができました。

これらの交流を通して感じることは、創価大学の学生は常にグローバルな視点に立ち、人類の幸福・平和に寄与できる自分になろうと努力を重ねていることです。その培われた精神は、卒業後も一人一人の心の土壌に深く根を張り、見事な花を咲かせようと、更に自分を成長させております。

時代を担うグローバル人材育成に取組んでこられた創価大学は今や世界 54 カ国・地域 182 大学とのネットワークをもつ日本を代表するグローバル大学として発展しており、2014 年には日本の大学のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」として日本国政府より採択されました。この点において創価大学の卒業生となる皆様に申し上げたいことは、今日国際的なネッ

トワークを持つということがどれほど大事なことかということです。皆さんが自国の友人ばかりではなく、この同じ地球の国々に友達をもつということが、世界平和を築くことになるのです。そして創価大学は平和構築のリーダーであるということを私は良く知っております。

創価大学の学生を育むこの文化・精神性は、私はまさに創立者池田先生の哲学によるものであると深く感銘を覚えるのです。

その青年を愛し青年に無限の期待を送り続ける池田先生に、2013年8月、タマサート大学の名誉哲学博士号を授与することができました。まことに光栄であると思います。

この授与式の謝辞の中で、池田先生は創価大学の根本の精神とは、「大学は、大学に行けなかった民衆のために尽くすことである」と言われております。本日卒業される皆さんに、私はこのことを生涯忘れずに本当に価値ある人生を送って頂きたいと申し上げたいのです。

タマサート大学の建学の父であるプリディー・パノムヨン博士は次のように述べています。「大学は、知識を求める国民の渇きをいやす井戸である。それは学問の自由の原則に従った、彼らが得るべき権利であり機会である。」と、そのため、大学は学生に学問の自由を大きく与えているのです。

卒業すれば厳しい社会の現実が待っていることでしょうか。実際に自分ができることは小さなことかもしれませんが。しかしその精神を忘れずに努力を重ねていくことが、我が母校の誇りある歴史となっていくことを確信してください。

その誇りをもって、人生の本当の勝利者になることを願い、私の祝辞とさせていただきます。ありがとうございました。